

ごぜ 唄が聞 こえる 2013

良い人と歩けば祭り 悪い人と歩けば修行

“最後の瞽女”小林ハルの言葉

力強く歌い続ける声がありました。凜と響く潔い唄声と三味線の音は、聴く人的心に沁み入り楽しませてきました。
小林ハル直伝の技を受け継いだ萱森直子さんによる、活き活きとしたごぜ唄の調べをお楽しみください。

【日 時】	2013年2月22日(金)、23日(土) 14:00開演(開場は30分前)
【上 演】	90分
【出 演】	萱森直子
【料 金】	2,500円 ※予約制 当日精算 全席自由
【談話会】	15:45から萱森直子さんを囲んで 歓談の時間を設けました。是非ご 参加くださいませ。



今回のプログラムは、特に初めてごぜ唄と巡り会う方にもお楽しみいただけるよう構成いたしました

お電話での予約・お問い合わせ
080-5055-3251

※13時～20時 ※非通知不可

※留守電の場合には、お名前・ご希望日時・枚数・

ご連絡先をお入れください。

改めて確認のご連絡を差し上げます。

空席情報をご確認の上、ご予約ください。
broaderhouse.info/goze2013.html



QRコードで
簡単アクセス

【企画・制作】 荒木明子
【舞台美術・監督】 辰巳次郎
【宣伝美術】 オフィスSKD株式会社
【協力】 新潟館ネスバス 東京新潟県人会
さゆり音楽舎 Ks Company

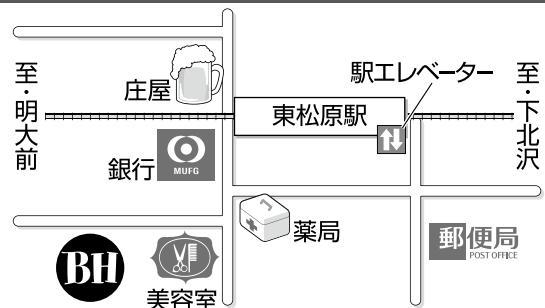


越後ごぜ唄 萱森直子

ブローダーハウス 〒156-0043 世田谷区松原5-27-10 TEL.03-3324-0919 FAX.03-3324-0916

Broader House
ブローダーハウス

<http://broaderhouse.info>



京王井の頭線『東松原』駅改札を出て右、徒歩1分
※急行は止まりません

ごぜ 瞽女さんとは、

三味線を携え農村・山村を巡る盲目的女性旅芸人のことです。

一年のほとんどが旅で明け暮れ、目的の村に着くと「ごぜ宿」という泊まりつけの家に荷を下ろしては、村の家々の戸口で唄い、来たことを知らせ(門づけ唄)、夜になれば、村人が集まりごぜの本領である祭文松坂(段もん)や口説き、民謡など(ごぜ唄)を聞かせ、喜捨や米や祝儀を収入としていました。

江戸時代には北海道を除く日本全国で姿を見る事ができましたが、明治時代に入りラジオやテレビの普及によって次第に衰退していきました。それでも特に新潟県では昭和の時代まで栄え、昭和52年(1977年)に瞽女が最後の活動を終えるまで続きました。瞽女唄は日本の娯楽の一端を担っていた伝統芸能の一つです。

最後の瞽女さんと言われ、記録作成等の措置を講ずべき無形文化財保持者(通称人間国宝)であった小林ハルさんも2005年、105歳で亡くなり、今では数人の方がごぜ唄継承に努力されています。



華法寺の境内でごぜ唄を披露しているハルさん
【写真提供:二瓶文和氏】

*小林ハル

1900年(明33)	新潟県三条市で出生
	生後100日で失明
1905年 5才	瞽女の親方に弟子入り
1909年 9才	初の旅回り
1973年	福祉施設に入所するまでの13年間を華法寺のある阿賀野市出湯にて二瓶文和氏の恩顧を受け過ごした。
1985年	特別養護老人ホーム「胎内やすらぎの家」で小林ハル、萱森直子会遇

萱森直子プロフィール



記録作成などの措置を講ずべき無形文化財保持者の長岡瞽女小林ハル氏に師事。

小林ハルの伝えた3種類の節回しで祭文松坂をうたいわることのできる唯一の唄い手。

師匠小林ハルのすすめにより、高田瞽女・杉本シズ氏より高田系瞽女唄も習得。

長岡・高田両系統の瞽女唄を直接伝授された、現代において唯一貴重な伝承者である。

公演では『瞽女唄は、かつての瞽女と聞き手たちの息遣いとともに伝えられなければならない』

を信念として、現代の感覚で手を加えずにありのままのごぜうたをよみがえらせる事を心がけている。

教職経験をいかし、新潟市内の保育園で園児と唄う活動にも取り組むなど、瞽女唄をめぐる環境づくりや後進の育成にもつとめている。

近年、新潟近県はもとより、山梨県清里、大阪府和泉市、京都清水寺、伊勢市、金沢市等、演奏会も全国的に広がっている。

ブローダーハウスと萱森直子瞽女唄公演の歩み

2007年 12月	ブローダーハウス企画初の東京公演 ごぜ唄が聞こえる 「赤垣源蔵・巡礼おつる」
2009年 2月	ブローダーハウス3周年記念 3週間連続公演 ごぜ唄が聞こえる2009 「葛の葉子別れ」
2010年 2月	ごぜ唄が聞こえる2010 「石堂丸」
2011年 2月	ごぜ唄が聞こえる2011 「八百屋お七」
2012年 2月	ごぜ唄が聞こえる2012 「山椒大夫・景清」

萱森直子による 指導・協力作品

2008年	NHK「新日本紀行ふたたび」萱森直子 出演
2009年	NHKオーディオドラマ「女歌 夢の道行」 (石川さゆり主演)の制作に参加。
2011年	石川さゆり主演舞台「夢売り瞽女」(大阪・名古屋) ごぜ唄指導・三味線協力
2012年	東京ノーブイ・レパートリーシアター公演 「越後瞽女唄冬の旅」ごぜ唄指導

毎日新聞、新潟日報など、新聞、雑誌にもその活動や文章がたびたび紹介され、萱森自身も「ブローダーハウスはごぜ唄にとってもふさわしい場として楽しみにしている会場である」と述べている。

お客様の声

先日、「瞽女(ごぜ)唄が聞こえる」を観に行ってきました。
最後のごぜである小林ハルさんが亡くなられ、もうごぜの文化は無くなりました。
もうごぜ唄を継承する人は本当に少なくなっていました。
今回聞かせていただいた萱森直子さんは、その中でも長岡ごぜの小林ハルさんから直接指導を受けた人です。
萱森さんの唄は私が抱いていた長岡ごぜのイメージそのものの歌い方をしていらっしゃいました。地のそこから湧いてくる声。迫力があり、またもの悲しさを感じる存在感。
とっても感動しながら聞いていました。
演奏が終わると、彼女の瞽女という芸に対する思いをお話していただいた時に、彼女がこの芸を伝えていく事に使命感を感じていらっしゃるように私は感じました。

今日で二回目でしたが今日も鳥肌が立ちました。ただただ感動です。すてきなお時間でした。また機会がありましたよろしくお願いします。
最後のうたがはじまりましたら、とめどもなく涙が次から次へとこぼれ落ち、心が洗われる思いがしました。欲もなくまっさらな心ゆえこのように切々とものがたりを語ができるのでしょうか。
時間とともに小林ハルさんと萱森さんが同体となられたような不思議な体験をさせていただきました。自然の中での時代の息遣い、土と向き合うひととの生活…小林ハルさんの若い頃もこのひびきだったろうなど。今一番大切なものをいただいたような気がします。
きれいに伝承してゆく方法もあるとはおもいますが、やはりこの飾らない荒さこそが瞽女唄だとあらためて感じました。